

開講科目名 / Course	地域生活支援論	
ターム・学期 / Term・Semester	2024年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期、3 学期 / Second, Third	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	藤本 優子	
担当教員名 / Instructor	佐藤 愛、小野 治子、藤本 優子、川南 公代、妻木 美香	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	多様な場で生活するあらゆるライフステージや健康レベルにある人々(個人・家族・集団)の健康や生活の質を向上させるために、看護職として必要な視点と地域看護活動を学ぶことを目的とする。地域特性と個人や家族、地域が抱える健康問題とのつながりを考え、健康増進や疾病予防を行うための科学的根拠に基づいた支援について理解する。	
到達目標	1. 地域看護活動における個別支援・集団支援の意義と方法について説明できる。 2. 各ライフステージ(親子・成人・高齢者等)の特性と地域看護活動について説明できる。 3. 対象集団の特性をふまえた健康教育の実施計画案を立案することができる。 4. 既存の資料を活用して地域特性を把握し、それらと健康問題(課題)を関係づけることができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	01. 地域看護活動の方法(家庭訪問・健康相談・地区組織活動等) 02. 各ライフステージにおける地域看護活動 03. 健康教育の目的と方法 04. 健康教育の実際(グループワーク) 05. 健康教育の実際(グループワーク) 06. コミュニティアセスメントの目的と方法 07. 実習地の概要把握(グループワーク) 08. 実習地の概要把握(グループワーク)	
その他の授業の工夫	学生が主体的に考え、発言できる力を養うために、グループワークや意見交換等のアクティブラーニングを実施する。さらに当該授業終了後、学びを振り返ることで、自分の考えをまとめたり深めたりすることを目的にミニレポートを課す。	
時間外学修	事前学修：事前に提示された課題に関する調べ学習(15h) 事後学修：ミニレポートの提出および配布資料を用いた復習(7h) 事前に調べた内容を講義で深堀するため、提示された内容について調べた上で講義に臨む。また、講義後はミニレポートおよび示された資料等を通じて理解を深める。 自分の日常生活の中で、地域にどのような人々が生活しているのかに目を向け、健康的な生活を送るために、個人や地域にはどのような強みがあるのか、一方で何が障壁になっているのかについて考えてほしい。	
評価方法と評価割合	定期試験：60%、平常点：20%(発表等の積極性、グループワークにおける貢献度)、各提出物：20%。定期試験は1回実施する。なお、定期試験の受験資格は、出席が6回以上とする。提出物には、ミニレポートも含み、その内容も評価に含まれる。	
テキスト	公衆衛生看護学.jp 第5版(インターメディカル)	
参考書	国民衛生の動向(国民衛生の動向)	
履修する上で必要な要件		
その他	本科目の単位を認定されていることが、地域看護学実習の履修にあたり前提要件となる。携帯電話等のデバイスはカバンの中に入れないこと。何らかの理由により学修上必要な場合は、担当教員に事前に相談すること。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	川南公代：行政の保健師 小野治子：高等学校・支援学校の養護教諭 藤本優子：行政の保健師 佐藤愛：病院の保健師 妻木美香：行政の保健師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	各担当教員が実践してきた豊富な保健活動をもとに、具体例を示し学生がイメージしやすいように工夫する。	